

令和2年度第1回

中津川市総合教育会議 議事録

令和2年12月21日 開会

令和2年12月21日 閉会

中 津 川 市

令和2年度第1回中津川市総合教育会議 議事録

令和2年12月21日

1. 出席者は次のとおりである。

中津川市長 青山 節児
中津川市教育委員会
教育委員（教育長職務代理） 小栗 仁志
教育委員 田島 雅子
教育委員 三尾 和樹
教育委員 橋本 あみる
教育長 岩久 義和

2. 欠席者は次のとおりである。

無し

3. 説明のため出席した職員は次のとおりである。

総務部長 渡邊 卓
総務部総務課長 林 行典
教育委員会事務局長 小関 智幸
教育委員会教育次長兼学校教育課長 大瀧 國嘉
教育委員会事務局次長兼教育企画課長 伊藤 公一
教育委員会事務局教育研修所長 後藤 佳子
教育委員会事務局幼児教育課長 河合 裕
文化スポーツ部長 丹羽 史久

4. 議事経過は次のとおりである。(午後2時55分)

渡邊 総務 部長	<p>定刻より少し前ですが、お揃いですので始めさせていただきます。</p> <p>これより令和2年度第1回中津川市総合教育会議を開会いたします。</p> <p>私は、司会を務めさせていただきます、総務部長の渡邊でございます。</p> <p>よろしくお願いいたします。</p> <p>本日の会議は、報告事項2件、協議事項1件を予定しており、終了時刻は午後4時30分を予定しております。</p> <p>では、次第に沿って進めさせていただきます。</p> <p>最初に、青山市長から挨拶をお願いします。</p>
青山市長	<p>皆様改めましてこんにちは。</p> <p>昨年は12月13日にこの会議を開催させていただいて、その後すぐにコロナ時代に突入してしまいました。</p> <p>橋本さんに新しく教育委員に就任をいただきましたが、歓送迎会も開けずにいます。</p> <p>その間、委員の皆様には、コロナ禍にあつての活動、そして現場では児童、生徒、また園児達をコロナから守る、先生方の現場での活動について感謝を申し上げます。ありがとうございました。</p> <p>コロナ対策を上げればきりが無いほど、多くのことがあったわけですが、まず子供たちにとっては、3月3日から5月いっぱいまでの大変長い間、特別休校、その間、現場の先生方も夏休み等とは別に初めて経験をされる年となったわけです。</p> <p>現場での指導、生徒、児童、子供さんたちの健康、勉強の進捗、様々な面でご負担をいただいたと思っております。</p> <p>また、それぞれの生徒の戸別訪問等もしていただきながら、勉強状況等も見守っていただく。大変厳しい1年であったかと思えます。</p> <p>そうした中で、学校の行事、とりわけ先週、修学旅行がすべて無事に終了した報告をいただいたところですが、様々な面で先生方と子供さん自身、そしてまた子供さんを持ってみえる家庭の皆さん、皆さんがお互いの立場を理解して協力し合うという、我々にとっても大変勉強させられた1年でもあったと思っております。</p> <p>一方では坂本こども園が4月から開園することができました。</p> <p>また、福岡小学校の前段になります、下野・田瀬小学校が4月から統合して、良い効果が出ていると判断をしています。</p> <p>そうしたことも着々と進めていただくことができました。</p> <p>本当に委員の皆様のご活動に感謝を申し上げます。</p> <p>コロナの状況を少しだけ報告させていただきます。</p>

3月頃からの第一波、そして第二波、この間、中津川市では7月28日から8月12日までの約半月の間に、7名の感染者が出たところです。

最初に感染者が出た時には市内でも緊張感が走りました。

8月から11月に入るまで感染者はゼロでした。

しかし11月に入り昨日までに66名。この1ヶ月半ほどの間に59名の感染者が出ました。

感染内容としましては、当初、飲食店でのクラスター、それに引き続き大学でのクラスター、現在では介護施設でのクラスター。こうしたものが感染者数を大きく伸ばしているところでございます。

それぞれの感染者の行動を調べているわけですが、連日のように感染者が発生をしております。

従って、子供さんたちも、いつどこで濃厚接触者の家族の一員という立場になりかねない状況です。

連日、対策会議を講じておりますが、ベストの手段というものはないので、「うつらない、うつさない」そのことをしっかりと自覚して行動をとっていただく。これに尽きるところでございます。

いずれにしましても、年末を控え、そして年始を迎えるという1年の中でも慌ただしい時期でもあります。今一度、皆様の行動を、感染をしない、させないの観点から、メッセージとして発信をさせていただいております。

いずれにしましても、コロナ時代を共に生きるとも言われておりますように、収まる方の収束はあっても、完全に終わるという終息にはならないであろうということが大方の見方であります。

そうした中であって、安全、安心という取り組みはしていかなければなりませんし、子供さんたちをしっかりと守るという、私たちの大きな責任でもありますので、あらゆる角度からご協議もいただき、安全に勉強のできる環境を整え、努めて参りたいと思っておりますので、どうかよろしく願いいたします。

後先が逆になって申し訳ございませんが、年末の慌ただしい中、また、お忙しい中、こうしてご出席をいただきましたことに、感謝申し上げます、冒頭のごあいさつとさせていただきます。

本日はどうぞよろしくお願いいたします。

渡邊 総務
部長

ありがとうございました。

続きまして、岩久教育長からご挨拶をお願いいたします。

岩久 教育
長

中津川市総合教育会議の開催にあたりまして、教育委員会を代表し、一言挨拶をさせていただきます。

青山市長には、ご多用にもかかわらず、また、例年とは大変異なる状況下

にあるにもかかわらず、教育会議を開催していただき、ありがとうございます。

また日頃は、市教育委員会が行う教育行政について、深いご理解と多大なご支援、ご協力を賜っておりますことに、この場をお借りしまして感謝申し上げます。ありがとうございます。

教育委員の皆さんには師走の平日、しかも週の初めにご参集いただきました、お忙しい中ありがとうございます。

委員の皆さんには、毎月の定例教育委員会の場のみならず、園や学校訪問した際などに、貴重なご意見、ご示唆をたくさん頂戴しております。

その多くが、事務局の職員や学校現場の教職員が気づかないことや、気づきにくいことであり、大変ありがたく思っています。

さて、本日の総合教育会議は、市や教育委員会が行う様々な教育に関する施策について、協議調整する場でございます。

本日もたくさんの予算を投じて実施した2つの事業について報告をさせていただきます。

また協議事項としましては、幼児教育・保育施設適正配置計画についてご協議をいただきます。

当市における今後の就学前教育のあり方に関わる大変重要な施策でございます。

それぞれの立場から、ご忌憚のないご意見を頂戴できると幸いです。

最後に、この総合教育会議が、市と市教育委員会が一体となって教育行政を推進するための意義ある場となりますことをお願いし、私からの挨拶とさせていただきます。

どうぞよろしくお願いいたします。

渡邊 総務
部長

ありがとうございました。

それでは、議事に入らせていただきます。

なお、この会議の議長は「中津川市総合教育会議設置要綱」第4条により、市長が務めることとされております。

それでは、青山市長、よろしく願いいたします。

青山市長

それでは、要綱の定めにより、議長を務めさせていただきます。

なお予防のために、窓が開けてありますので、寒い場合には遠慮なく寒いと言っておきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

会議について、要綱第6条の規定により原則公開となっており、個人の秘密を保つため、又は会議の公正が害されるおそれがあると認めるときは非公開とすることができるとされております。

伊藤教育
企画課長

本日は傍聴者が不在のわけですが、すべて公開することとしておりますので、お願いいたします。

それでは次第に沿って進めさせていただきます。

次第3番の報告事項。

1つ目、ICT教育の推進について、事務局より報告をお願いします。

それでは報告事項の1つ目、教育の推進についてお手元の資料により、ご説明したいと思います。

令和時代のスタンダードな学校像として、ICT環境整備が急務とし、国は令和5年度までとしていたGIGAスクール構想を前倒して実施することとしました。

昨年この総合教育会議でもこの話があり、5年の計画でやっていきますということでお話をさせていただいたと思いますが、その後状況が一変し、この1年で、基盤、ICT環境の整備を行うというような状況になり、まず、高速LANの環境整備ということで始めております。

これは令和2年の3月補正で予算を付けていただき、事業費3億4900万ほどの負担とさせていただきました。

契約の方法としましては、対象学校を6工区に分割して指名競争入札を行い、学校ごとに工区を分けて、工区の業者さんに参加していただき、整備を進めております。

工期は2月24日までということで、最後の学校が2月24日までに完成する予定であります。

最初に工事にかかった学校については、年度内に検査を行うところまでいっています。事業の内容としましては、校内のLANの整備及び無線のアクセスポイントの整備工事を行います。

また、電源キャビネットの整備工事もあわせて行っていくこととしています。

続いて2つ目、タブレット端末の配備については、児童生徒1人1台タブレット端末を提供するというので、これにつきましても本年6月の補正予算で予算化をさせていただきました。

事業費は3億2200万ほどになります。

契約の方法につきましては、市内業者を含めて19社で指名競争入札を行っていただき、富士電機ITソリューション株式会社に決定しております。

納期は、令和3年の3月というところですが、先ほどのLAN整備の工事が終わったところから、順に1月からタブレット端末を納入していく予定でおります。

中津川市で選定した機種はChromebookという機種で6,074台購入い

たします。

これは全国規模からいうと、53%が中津川市と同じ機種を購入するということになっております。

続いて3つ目、ネットワークの管理システム、それからオンライン授業用機器等については、LANの整備、端末の整備を行い、そのあと足りない部分の工事について、9月の補正予算で予算をつけていただきました。

1つは、企業から寄附をしていただいた寄附金を活用させていただいて教員用、教員の研修用の端末、それからハンズフリーセット、端末画面転送機を各82台整備することはできました。それから、端末をネットワークに接続して運用するためネットワークを管理するシステムを整備させていただきました。

これにより令和3年4月から運用開始ができるよう、準備を進めているところです。

この後の計画としましては、現在授業で使用している端末について再設定を行うような作業があります。この後、デジタル教科書やクラウドサービスの利用に向けたシステムの設定変更なども行っていきます。併せて、これからの話になりますが、パソコン教室が必要なくなるということで、パソコンを順次整理していくという計画です。

後藤 研修
所長

4つ目の指導用デジタル教科書の導入の効果について説明いたします。

事業費は2697万7000円です。

対象は市内の小学校、デジタル教科書を導入した教科は、国語・社会・算数・理科・外国語の5教科です。

指導用デジタル教科書導入の効果について学校から報告のあった内容については、資料にまとめたように、理解を深めたり、着目させたいことを示したり、特別支援を必要とするお子さんの支援ツールとなったりと、様々な場面で効果的に活用することができました。

今後の計画についてです。令和3年度4月より市内全小中学校において、1人1台端末の使用が可能になります。タブレットに連携された授業支援ツールにより、教員の画面から必要な資料を子供の画面に配信する等、資料の読み取りや考察を促していくことができるなど、さらに活用の幅を広げることができます。

5番、プログラミング教育について説明します。

事業費は、令和元年度より購入を進めておりますので、本年度の事業費は20万6000円です。

対象は市内の小学校で、6年理科の学習で活用します。

プログラミング教育教材導入の効果についても、学校から報告のあった内

容は資料にまとめたように、実際にプログラミングしたことが、基板上で点灯、消灯、音が鳴るなどで示されることで、楽しく学ぶことができました。

今後の計画についてです。学校に貸し出し可能な個数を整備していくことで、体験を充実させていきます。

また、一人1台端末の導入により、個別にプログラミングした内容をプログラミング教材に接続することで、より個別に最適化された学びが可能になります。以上です。

伊藤教育
企画課長

最後に、ICT教育の課題について若干戻らせていただきます。

端末の持ち帰りというのがこれから必要になってくるという課題があります。

家に専用の端末がある子供は36%、家庭のインターネット環境ということで、高速ネットの環境があるというのが86%となっております。

これから、こうした環境についてどうしていくかということを考えていく必要があると思います。

今回6000台という、たくさんの端末を導入しましたが、また更新時期のときのこととも考えていく必要があります。

もう1点、ICTの教育を推進するためには、先生のスキルアップというのがどうしても必要ですので、これから充実していく必要があるかと思えます。

以上で説明を終わります。

青山市長

この事業は、昨年の全校エアコン導入に続く大変大きな事業として実施しました。

ただいまの報告、説明につきまして、ご意見、ご質問等ありましたらお願いをいたします。

三尾委員

丁寧な説明をいただき、ありがとうございました。

説明の中にありましたように、タブレット端末の配置だとか、LANの整備、デジタル教科書の導入など、中津川市は大変進んでいるという感じを受けました。

ということは子供たちがすごく恵まれているということだと思います。

最後にご説明ありましたICT教育の推進課題の中で、最後の・にあるICT教育推進のための先生のスキルアップというものがありますけれども、これは他の課題に比べてちょっと異質といいますか、ソフト面といいますか。そういう感がします。

例えば、コンピューターの取り扱いという点では、それも子供たちの一つの能力の問題がありまして、例えばアルファベット入力ができる子、なかなかアルファベット入力ができない子とか、使い方自体が早く理解できる

子とか、理解できない子とか、その時点でもうすでに、リテラシーと申しますか能力に差ができてくるわけで、やっぱり最後にありますICT教育推進のための先生のスキルアップという点で、今後、研修等に力を入れていかなければいけないと思いました。

後藤 研修
所長

GIGAスクール構想が急速に進んで導入されてきたってということもありますが、来年度4月から運用できるようにということで、今年度中に教員に向けては、Chromebookの機能であるとか、基本操作の基本的な研修は今年度中に計画をしております。

来年度以降、教科の中でどのように活用していくとか、現場の先生方に慣れてもらうための研修を位置付けながら、段階的に、3年ぐらいをめどに慣れる、使う、活用するという方向で、研修を組んでいきたいと考えております。

青山市長
田島委員

他によろしいですか。

去年の12月13日、その時にICTの話をしたときに、私たちは1人1台というのは、たくさん過ぎるから譲り合ったり、協力し合って使うことが、人間力を高めていく上での指導になるのではないかという話をしました。

しかし、状況が変わりまして、この緊急事態ということで、政府の方からも1人1台いただけるということになりました。

早く進行しているようではございますけれども、緊急事態宣言の時は学校で授業ができないので、家に持って帰ってそれで、家でできるということで非常にありがたいですが、どんなふうにするかというのが想像できません。

私たちが学校へ見せてもらいに行ったときは、大きな画面に先生が1人タブレットを持っていて、そのタブレットを大きな画面に飛ばして、全員がそれを見ていて、そこで話をしたり手をあげたりして、答えたり質疑をしたりというような場面は見ています。

もう一つプログラミング教育ということで、プログラムをして車を動かしたりというプログラミング教育も見ていますが、実際に授業の中で1週間に何回使うとか、どんな科目で使えるとかが想像できません。

あと視聴時間ですね、視聴時間とか全く想像ができないので、まだ準備中だと思うんですけども、少し分かっているところだけ教えていただけると嬉しいと思います。

後藤 研修
所長

国は、活用の重点として、一人一人に個別最適化された学びを生み出すということが、重要課題として挙げられております。

中津川市としては、その個別最適化された学習とともに、共同的な学びも大事にしたいというふうに考えております。

まずは、共同的な学びの中で、例えば先ほどお話しましたように、先生か

ら資料が送られてくるところと一緒に、そこから資料から考えを作るとか。タブレットの中に基本的な機能があります。

写真を撮ったりとか、自分で考えたことを、タブレット上に映しましたとか基本的な機能を使いながらまずは一斉授業の中で、タブレットを活用して、より学びを深めていく方向に考えております。

個別のデータが集積されたりしながら、その子に応じた学習も支援されていくような方向も考えておりますが、まず段階としては、共同的な学びの中で、タブレットを活用するというを考えております。

健康面の被害については、先週、文科省からの研修がありました。

授業で使う中では、大きな問題はないであろうということです。

今後、家庭に持ち帰るとか、家庭での視聴時間が長くなることについての、目の被害とか、そういったところは考えていかなければなりません。

中津川市としましては、家庭での生活づくりの学力アッププログラムという取り組みがありますので、そういうところも使いながら、家庭で啓発していくことも考えております。

岩久教育
長

これからの教室で展開される授業がどう変わっていくか、イメージができないというのが、今の状況だと思います。

3年かけてやると言っていたことが、一気に1年で入ってきたという状況も、イメージできないことの原因になっていると思います。

学校に勤めている者としては、今までの指導感も変えていく必要が出てくるかと思っています。

例えば、教員が子供たちに教える場合に、子供の方が先生よりもはるかに高いスキルを持っているということは、今まではあまりありませんでした。

それから、子供の中で極めて差が大きいことがあります。

全く触れたことがないとか、家にそういったものがない子もいれば、かなりスキルが高く、先生以上のことが、例えば小学校の高学年でもできてしまうかもしれません。

そういうことが起こり得るのが、プログラミングだったり、ICTの教育だと思います。

そうすると、教える側も今までの教育は変えざるをえないと思っています。

その辺の調整が、これから必要になってくると思いますが、私はその差に期待しています。

子供同士の学び合いもそこで生まれてくるような気がします。

今まで先生が一生懸命引っ張っていたが、雰囲気も変わってくるかもしれません。

こんなところに期待をしながらも、教員研修はしっかり行い、先生方の指導感も少しずつ変わっていくと思います。

良い方法に向くベクトルのきっかけになっていくのではないか、その水先案内を私たち教育委員会事務局がしっかりしていかななくてはいけないと思っています。

ぜひ期待していただければ、と思います。

青山市長

私も心配しているところは、教育長が言われたように、タブレットの扱いに差があると思います。

タブレットの扱いに長けている子は偉いんだというような錯覚だけ起こしてもらいたくない。あくまで人格を作っていく手段として、このタブレットを導入しています。

自分に置き換えても、私がマゴマゴしていると小学生の孫が「じいちゃんこうだ」って、そういうことをやっぱり言ってきます。

このような状況の中では、扱いが優れている子がすごいなということになります。

そこで評価は絶対、子供たちがしない環境にしておかないと、別の課題に繋がってしまう可能性があるので、現場でよろしくお願いします。

小栗委員

今の子供たちが大人になるに向けて、避けては通れないデジタル化社会での育ちというのは間違いないことですので、早い段階でこういう取組みが学校でできるのは、非常に良いことかなというふうに思っています。

今回ハード面が整ったということで、いよいよ来年始まるわけですけども、やっぱり大切なのは、ソフト面、中身をどうしていくかっていうことで、それをこれから作り上げていきます。

運営するにあたって、先生たちのスキルアップは、すぐにはできないにしても、そういった事も蓄積しながらやっていくという中ではソフトをいかに活用するか。子供たちにそれをいかに教えることができるのかということが重要なと思っています。

外れちゃいけないなと思っているのは、使うのが目的じゃないってことだと思っています。

目の前にタブレットがあると、それを使うことが目的かのようになるが、またキーボードを打つとか、そういうことも確かに大事ですけど、ICT教育の目的っていうものは、そうではなくて、ソフト面でいかにそれを活用していくかということだと思うので、授業で使うということだけではなくて、それを通して世界中どこでも繋がるわけです。

そういうグローバルな使い方に、ぜひ役立てていただきたい。

これからのことなので、すぐには難しいかもしれませんが、例えば市内

	<p>でも、市内の学校同士で連携がとれる。県内、県外からも世界中のいろんな子供たちと繋がれるとか、東京とかに行かないと見られないものが、間近で見られるとか、デジタル特有の使い方ができると。これを教育として入れていく。大きなメリットが出ると思うので、大変ですけど先生たちのスキルアップに期待します。</p>
橋本委員	<p>私も子供たちを見ていて、もう感覚的にわかっているんだろうなって思います。</p> <p>タブレットとか端末でも私よりもスキルが高いんです。きっとこれから少し教えてもらおうと、できるようになっていくと思います。</p> <p>本当は親が教えないといけないのですが、学校で教えていただきたいのは、モラルとか倫理とかこういうものは作っちゃいけないとか、こういうところは見に行っちゃいけないとか、こういうことをアップしちゃういけないとかを先生に教えていただけるととっても安心です。</p>
青山市長 後藤 研修 所長	<p>それはもう計画されていますか。</p> <p>今年度より小学校は新学習指導要領の実施が始まりました。</p> <p>来年度は中学校での実施が始まりますが、学習指導要領の基盤として、今まで言語能力が基盤になっていたものに加えて、情報活用能力というものも学習の基盤として大事に取り扱っていくことが明記されています。</p> <p>それを受け、ICT教育の重点としても、橋本委員がおっしゃられたように、まずは正しく使っていくという情報のリテラシーとか、そういったところも学びながら、小栗委員が言われたように、目的でなく手段です。</p> <p>自分の解決したい課題のために、情報をいかに活用していくのかっていうところを子供たちが学びながら、時に、他者と共同するのが今まで校内だけの他者であったものが、遠隔の他の人と交流する場面も広がります。</p> <p>そういったことで、子供たちがより深い学びに繋がっていくように中津川市としては重点に進めていく考えです。</p>
青山市長	<p>期待の大きなところと、やはりスタート前というのはどうしても様々な不安も出てきてしまいますけども、こうして期間を短縮した中で準備がほぼ終わりそうな状況になりました。</p> <p>新年度からの稼働に向けて、そして今言っていたようなご意見も現場でしっかりと対応していただけるようお願いをして、1番の報告事項はこれまでとさせていただきます。</p> <p>つづきまして2つ目、「教育施設の空調設備等設置について」事務局の報告お願いいたします。</p>
伊藤 教育 企画課長	<p>続きまして2つ目、教育施設の空調設備等の設置についてとさせていただきます。資料により説明をさせていただきます。</p>

令和元年度におきまして、空調設備の設置をしていただきました。

その数は、保育園、幼稚園、小学校、中学校、高校合わせて48施設。全部で357台のエアコンを設置していただきました。

また、それに合わせて全熱交換換気扇、これは三菱のロスナイのことですが、同じ台数357台を設置していただきました。

事業費は11億円ということで、大きなお金を投じて整備をしていただきました。

特に、補助金が1億4千万というところでありますので、市の方で大きなお金を投じていただき大変感謝をしております。

参考に小学校、中学校とも、この整備により普通教室は100%空調機を設置することができました。

あと、特別教室はまだ小学校で43%、中学校で21%の整備率になっておりますので、今後の課題として進めていきたいと考えております。

昨年の空調機が設置完了したのが9月末であったので、今年1年、各学校に空調機を使用していただき、その教育現場の声を各学校から寄せていただきました。

ここに抜粋したものを掲載してありますが、若干説明をさせていただきたいと思えます。

まず、幼稚園、保育園につきましては、「例年はエアコンのついている遊戯室か、唯一1台だけ入っていた保育室で100名の子どもたちがお昼寝をしていたが、今年の夏は全室にエアコンが設置されたので、密にならずに過ごすことができ、大変ありがたかった。」「ロスナイは換気ができるので、非常に役にたっている。」

続いて、児童生徒の声としまして、「涼しくて気持ちいいです。勉強がしやすいです。休み時間や運動の後に教室へ入ると気持ち良くて嬉しいです。」「体育の後に教室に帰ってくると涼しくてすぐに授業ができた。」ということで、その他にも「給食がしっかり食べられた。」というようなご意見もあります。

それから、学校の先生方にお聞きしたところによりますと、「涼しいのはもちろんですが、ロスナイの換気システムがこのような状況の中で本当にありがたいです。今年度は特に夏休み短縮の中で乗り越えられたのは空調のおかげです。有難うございます。」

それから、養教の先生にもご意見をいただきましたが、「ロスナイの設置で、二酸化炭素濃度の値がずいぶん下がりました。冬に他の学校で3時間連続教室での授業を行った際には、3000ppmになっていたこともありました。落合でロスナイを稼働させて同じように測定したところ基準値内の

1500ppmでした。窓を長時間空けなくても十分換気ができるので、寒さ暑さ対策になります」というような声をいただいています。

アンケートの中で、保健室の利用について調査をしておりますが、特に利用者数に影響はなかったというのが45.2%ありましたが、保健室の利用者数が減った、熱中症の症状者が減ったという回答をしていただいた学校が、全体の51.6%ということで、大変よい効果をもたらしているということが考えられます。

最後になりますが、空調機を設置したことによって電気料が跳ね上がることを心配しておりましたが、3年間の結果をまとめていました。

4月から9月まで稼働できたのが、今年度ということになりまして、過去2年の4月から9月までの6ヶ月間を比較対象として挙げてあります。

4月から9月の6ヶ月間で電気料金を比較すると、令和2年度は前年に比べ、1校あたり10万5千円増加しています。

特に8月は、夏季休暇の短縮もあって、1校あたり11万円増加したということになります。

電気の使用料につきましては、その時の天候や要因により大きく変化をします。今年は休みの短縮ということもあったので、特に8月に大きな電気料になっているということが考えられます。

コロナ禍の中では、冬季の空調機、特にロスナイについても利用が増加されると見込まれますので、今後も引き続き評価を継続していきたいというふうに思っております。

青山市長

それでは、2つ目の報告事項について説明がありました。

ご意見ご質問等ありましたらお願いいたします。

田島委員

思わぬ効果ということで、給食の廃棄率が下がったということは本当にありがたいことです。

空調を入れるとロスナイも入るというような仕組みになっていると聞きました。

ロスナイだけ入れようとする、手動で入れるということを知りましたが、落合中学の例はあるんですけども、先生方一人一人までロスナイの使い方が、まだ浸透してないんじゃないかというところが無きにしも非ずと思いますので、資料には利用の増加が見込まれますと書いてありますが、もう少しロスナイの使い方を徹底していただければいいんじゃないかと思いました。

青山市長

ぜひ、全ての先生方に知っていただくようお願いします。

小関事務局長

校長会の折に、ぜひロスナイを有効にご活用くださいということをお願いしておりますが、田島委員がおっしゃったように、学校に訪問しますとロ

スナイを使っているんですけども、窓も開けているということもありますので、コロナの関係で大事の上に大事を取ろうとやられるのを見受けられますが、実際に三菱電機さんで、昨年、小学校で実証試験を行っていただいて、基準値の1500ppmを下回る検査結果が出ておりましたので、お伝えさせていただいて、適正な運用をしていただくように話を引き続きさせていただきます。

岩久教育
長

少し補足します。

今回この資料を作成するにあたり、学校の方にもアンケートでの照会を行いました。

もっとすごい効果があると期待していたんですけど、控え目な結果でした。

私は昨年度まで地元の中学校長をさせていただく中で、一昨年、昨年のちょうど一番暑い9月の第1週、第2週のデータを取って比較しました。

一昨年は、9月当初に雨が多くて、例えば最高気温の平均値が9月第1、第2週の平均は27度しかありませんでした。

昨年は31.6度ということで5度近く差がありました。

エアコンがついていなかった一昨年より、エアコンのついた昨年はかなり気温が高くて厳しい夏でした。

そういう状況下、職員と生徒合わせ300人規模の学校で先ほどの資料の中にもありましたが、例えば給食の副食の残菜が、前年度同時期が2週間で33.5kgあったものが13.7kg。つまり6割減でした。主食についても約3割減っていました。

厳しい夏だったのに欠席者も3割3分ぐらいは下がっていましたので、私の実感としましては、非常に大きな効果がありました。

同時に、涼しい教室で学んでいて、理科室や技術室などの特別教室に行くとか暑いという話が学校からは出てきました。

厳しい財政下ですが、次の段階として、特別教室にも順次拡充していく必要があると教育委員会事務局としては感じております。

青山市長

また計画してください。

三尾委員

中津川市は工事がすごく素早くできて、あっという間に全幼保小中に入ったことがすごいと思っていました。

お二人がおっしゃられたこと、本当にその通りだなっていうふうに思います。

電気料がもっと跳ね上がるのではないかなと思ったけど、コロナの中にあって夏休みの授業もあったんかかわらず、思ったほど電気料がかかっていないことに感動しました。

ぜひ活用して、子供たちの学習、能力、先ほどの食欲面、健康面、いろいろなところで、エアコンが活かされていくと、これから教育にも大きく影響してくるのではないかというふうに思います。

よろしくをお願いします。

小栗委員

学校を訪問させていただくと、先ほど教育長がおっしゃったように、空調が入っているところと入っていないところの差をすごく感じます。

全国的にわかりませんが、空調の設置ってというのは、ある程度計画的に進めていただきたいというのが一つ。学校施設ではあるんですが、避難所になる体育館ですね。体育館は教育施設ということと、災害時の避難所になり得るということで、その空調というものも含めて考えていくべきなのかなというふうに思います。

岐阜市さんは、3年計画ぐらいで体育館空調を入れていくという動きがあると聞いています。

岐阜市さんは方針を立ててやっていくという中で、全国的に見ても体育館の空調設置ってというのは、1桁台なんですね、5%ぐらいだと聞いています。

その中で非常に厳しいんですけども、体育館は避難所になりますので、つけていただきながら子供たちも活用する。また、市民の皆さんも活用する。

そんなことも含めて、中長期的になるかもしれませんが、考えていただければありがたいなと思います。

青山市長

来年3月で国土強靱化緊急対策法は期限を迎えるが、自分たちは5年間の延長の要望活動をしてきました。

5年間の延長が決まって、詳細はこれからされるんですけども、この5年間の総枠は15兆円という予算です。

学校の施設である体育館を避難所という観点からしたときには、教育分野から切り離して、5カ年の緊急対策の中で国に予算化してもらおうというのも一つの方法であるかという思いもあります。

今、様々な学校施設が、放課後児童クラブなどの活用も出てきているので、国土強靱化ということについては防災減災だけではなくて、人の強さというのも当然そこにはあるわけであり、教育分野にも繋がってきます。

そのような補助を活用していくという組み立ても、これから大切になってくると思います。

どこの自治体も財政取組みの優先順位という中でやっていくと、普通教室からスタートして・・・という流れとなり、これは逆らうことはできません。

従って、それを待っていると遅くなってしまいます。

だから、私は国土強靱化の中で避難所として暑い時が多いですから、安全安心のためにエアコンの設置を求めるという展開が一番早いんじゃないか

	<p>と思っています。</p> <p>そのときには皆さんに応援してもらわないといけないので、お願いします。</p>
橋本委員	<p>近年の猛暑で、夏はやっぱり子供の熱中症がすごく心配で、敏感になっているんですけど、学校でも涼しく過ごして、冬はコロナですがロスナイで換気ができて、学校生活が安全に送られることにすごく感謝しています。</p>
青山市長	<p>地元で出来ているものが脚光を浴びて、他のところで使っていただけるということは我々にとってもありがたいことですね。</p> <p>他はよろしいでしょうか。</p> <p>教育長はもう少し大々的という話もありましたけども、良い評価をいただいたということで、報告とさせていただきます。</p> <p>続きまして、次第4 協議事項に移ります。</p> <p>「幼児教育・保育施設適正配置計画について」事務局より説明願います。</p>
河合幼児 教育課長	<p>それでは、これより中津川市幼児教育・保育施設適正配置計画の説明をさせていただきますが、その前にお手元へ別にお配りしておりますA4一枚ものに基づき「策定に向けた動き」と「概要」について、ご説明させていただきます。</p> <p>まず、策定に向けた動きという部分につきまして、これまで、今、これからと時系列にて説明をいたします。</p> <p>本計画につきましては、教育委員会事務局において原案を作成し、客観性を高めるため、図の右上にあります、「中津川市幼児教育・保育施設適正配置計画策定協議会」を設置し、市内の幼児教育・保育を提供している代表者の方々からご意見をいただきました。</p> <p>今年度7月から9月にかけて、全3回の意見交換を踏まえ、主なものとして、</p> <p>①統合ということだけでなく、適正配置によって保育の質が向上するということ</p> <p>②公立、民間が一緒となり、中津川市の子どもを育てる職員同士、学ぶ機会があるとよい</p> <p>③今回の計画を進めるにあたっては工程表を作成し適正配置の具体的な内容を示すことが必要</p> <p>とのご意見がだされました。</p> <p>その点計画に対しては入れ込み、まとめたものをひとつの成果物として10月には教育長への報告、公立幼保園長会、教育委員会協議会へ報告をさせていただきました。</p> <p>11月を経て、今月10日には子ども・子育て会議へご提案をさせていただき、本日総合教育会議にてご協議いただくためご提案させていただいてお</p>

ります。

今後につきましては、1月に議会勉強会、その後パブリックコメントを行い、3月策定、令和3年度から実施としていきたいと考えております。

それでは、概要についてご説明いたします。

まず、計画名は、「中津川市幼児教育・保育施設適正配置計画～よりよい幼児教育・保育環境を提供するために～」となっています。

次に、計画期間ですが、令和3年度から令和12年度までの10年計画です。

少子化の流れが速いこと等を考慮し、計画内容と実態が乖離しないよう、2年に一度見直しを行う予定です。

なお、この計画につきましては、中津川市総合計画、中津川市子ども・子育て支援事業計画、中津川市学校規模等適正化基本計画、中津川市人口ビジョンの内容を踏まえ策定するものでございます。

続きまして、計画内容のポイントについてご説明いたします。

まず、11ページをお願いいたします。

ここでは、中津川市の未就学児人口及び幼稚園・保育園等への就園人数の推移を確認いたします。

表につきましては、平成26年度から令和2年度までの人数を表しています。

左から3列目、未就学人口につきましては、平成26年4月1日時点では3,992人であったのに対し、令和2年4月1日では3,332人と6年間で660人の減少、また、左から4列目、園児数では2,440人から2,203人と237人減少しており、中津川市においても少子化が進んでいることがわかります。

続きまして、20ページをお願いいたします。

20ページから25ページにかけて、将来人口推計を載せています。全体人口のあと、地区別、年齢別としておりますが、全て右肩下がりに推移し、少子化は今後も進むことが予想されております。

続きまして、26ページをお願いいたします。

平成24年2月に中津川市教育委員会においてまとめました、中津川市学校規模等適正化基本計画「幼稚園・保育園のあり方」基本方針となります。

ここにおいて、上から2つめの○で囲ってあります部分、■幼保規模等適正化の基本的な基準、がでございます。

(1) 望ましい幼児教育・保育の集団規模として、【幼稚園】では、1学級20人以上で複数学級を保持、【保育園】においては、4、5歳児1学級20人から30人とされております。

その現状がどうなっているのか、29ページをお願いします。

先ほどの基準に照らした場合、3歳以上児の人数を平均して20人以上となる園は、全20園のうち7園であり、神坂幼稚園、山口幼稚園、川上保育園においては全園児が20人に達していない状況です。

続きまして、31ページをお願いいたします。

ここでは、公立幼稚園、公立保育園施設の状況についてみてまいります。

昭和40年代から平成初期に建設されたものが多く、建設から50年近く経過するものもあります。中でも旧中津地区の保育園については老朽化が著しい状況となっております。

続きまして、34ページをお願いいたします。

計画策定には子育てをしている保護者の意見やニーズ、実態を的確に反映していくことが重要となります。

令和2年3月に策定した子ども・子育て支援事業計画の基礎データとして実施された、子育てに関するニーズ調査結果では、

就労している就学前児童の母親の割合が高くなっていること

その就労についても就労時間、就労日数が比較的長めであること

認定こども園の利用希望が増えていること

未満児において教育・保育利用の希望が多いこと

との意見が見受けられます。

これらを踏まえ、子ども・子育て支援事業計画では、教育・保育に関する基本的な考え方をまとめています。

35ページをお開きください。

基本的な考え方としまして、中ほど、点で囲った部分となります。

公立と民間の役割分担を明確化し、民間との協働を進めます。

認定こども園化を進めます。

集団規模の適正化を図るため、公立園の適正配置を進めます。

民間活力により未満児保育の充実を図ります。

発達支援クラスは健常児と交流ができるよう健常児クラスと併設します。

北部地域に発達支援クラスを設けます。

の6つとなります。

これら6つの基本的な考え方に加え、中津川市幼児教育・保育施設適正配置計画策定協議会においてご意見をいただきました部分を付け加えております。◆下から2つめ、子どもたちの発達によりよい保育環境を提供していくため、公立の園と民間の園、それぞれの職員が交流し、学び合う機会を設け保育の質を向上する、ということや、保育園、幼稚園、こども園での「生活する力」「かかわる力」「学ぶ力」といった幼児期に身に付けた力が小学校

生活の基礎となり、さらに中学校、高校、大学へと成長するにつれ豊かな表現力が身につくよう、民間・公立がそれぞれの良さを活かし中津川市の子どもたちにより良い保育環境を提供する、という部分へ反映しています。

さらには、36ページにおいて、子どもたちの発達によりよい保育環境を提供するためのメッセージとして、中津川市の保育を守る、と題してまとめております。

ひとつの目の◆では、平成30年度に幼稚園教育要領、保育所保育指針等の改定が行われ、保育園、幼稚園、認定こども園ともに教育についてのねらい、内容が同じとなり、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿10項目が明確に示されたことを載せています。

なお、本計画におきましては、この10項目に加え、先日、子ども・子育て会議において委員の一人からご意見のありました、生活の基本を付け加え、11項目として表現しております。

また、ふたつ目の◆では、園児数が少ないことで人と人との関わりによって育まれる“思考力・判断力・表現力”、また、“挑戦、我慢して最後までやり遂げる力、思いやり”といった関わりを保育で促す場面が少なくなり、保育で最も求められている社会的自立が発達しづらいと考えられること、などから、今の中津川市においては適正配置を進め、子どもたちの集団規模を確保することが必要であり、適正配置によって、子どもが主役となった中津川市の保育を確立し、保育者の確保につなげ、保護者の中津川市に住んで良かった、につなげていくことが大切であるとまとめています。

次に37ページをお願いいたします。

適正配置計画に向けた基本方針を示しております。

本計画は冒頭お話ししましたとおり、10年計画です。

適正配置を確保していくため、3つのフェーズに分けて計画を進めてまいります。

まずできることといたしまして、1学年が少人数となっている園につきましては、集団を楽しむことができるよう異年齢保育を行います。

計画の前倒しではございますが、川上保育園、山口幼稚園につきましては令和2年度から異年齢保育を行っております。

次に3年以内を目途ということで、市民ニーズにもありました、保護者の就労状況で、園児が退園や転園となることが解消できる、認定こども園化を進めてまいります。

その次として、10年以内を目途に民営化、指定管理を含んだ統廃合を進めてまいります。

指定管理につきましては、子ども・子育て会議におきまして、委員の方か

ら長期的な計画を検討するようご意見がございました。

これらを踏まえ、38ページ以降で各地区での適正配置を示してございますが、まとめといたしまして、別添の工程表をお開きください。

この工程表につきましては、現在の公立幼稚園・保育園・こども園20園がいつ頃、どうなる、といったことを示しています。

10地区20園が表の左側3列目までにおいて示しております。

この20園が左から4列目の区分として「統合・こども園化」などを経て、最終形態ということで12園に再編される姿を示しています。

主な動きとしましては、令和5年度に05の阿木地区、07の加子母地区、10の蛭川地区において、各保育園を認定こども園化します。また、少子化が著しい06のやさか地区の川上保育園を坂下保育園に先行して統合します。

次は、令和7年度に01中津地区の公立3幼稚園を1つに統合し、04落合、神坂地区の保育園、幼稚園を統合します。その他、09の福岡地区において下野保育園を福岡保育園に統合します。

最後に、令和12年度、01中津地区の一色、北野保育園の統合と04苗木地区、03坂本地区、08付知地区では民間園との統合・こども園化の他、06やさか地区の山口幼稚園を坂下保育園へ統合、09福岡地区の高山保育園を福岡保育園に統合します。

なお、ただいまの苗木、坂本、付知地区につきましては、民間園が同じ地区にあることから民間園と統合し、保育所型認定こども園として指定管理で運営委託を進めていきたいと思っています。

なお、繰り返しになりますが、この計画は10年計画となっておりますが、少子化等の状況に応じ、計画を早める可能性があります。

最終的に、この過程を経て、現在の14保育園、1認定こども園、5幼稚園の全20園が、1保育園、10認定こども園、1幼稚園の全12園となります。

今後の状況を的確に見極め、中津川市の子どもたちのため、よりよい幼児教育・保育環境を提供するために適正配置に努めてまいりたいと考えております。

以上で説明を終わります。

ご審議のほど、よろしく申し上げます。

青山市長

ただいま、幼児教育・保育施設適正配置計画についての説明がございましたので、協議に入らせていただきます。

子供さんの年齢が上がるにつれて、対象者も変わっていくということが、こうした計画については非常に難しい部分でもあります。

詰める時は、一時に進めるっていうことも必要ですが、それについては現状を踏まえた中で説明をしてくれましたので、それぞれのご意見ございましたら、お願いをいたします。

資料の中で、矢印が●に向かっているが、これはもう決めてあるのか、どこに作るとか、どっちを活かすということについては、まだ議論はしてないという理解で良いですか。

河合 幼児
教育課長

母体が大きいこと、園自体のキャパとか、保護者さんの生活の流れ、例えば工業団地に仕事に行かれるとか、生活の流れ、そういったことを考慮して今のところこういった形で検討させていただいておりますけども、今後の議論の中で、また別の考え方が出てくるかもしれませんので、そこは十分精査して進めていきたいと考えています。

青山市長

子供が安全に園内で決められた時間の中で活動ができることが大事なことで、一番の目的の中で、集団を楽しむことができますとあります。

規模がある程度揃っているからというだけでやってしまうと、集団を楽しむことができるという目的から離れていく可能性もあります。

様々な観点から、この矢印がどっちへ向かうかということは、今一度、検討してもらいたいということでお願いします。

田島委員

10年計画ということで進め始めたところですけど、最初は平成24年に適正計画が始まって、それからの流れが滞って、最初に小鳩の民営化がありましたね。

それから下野と田瀬が一緒になって、やっとうして出してもらえたっていうことは本当にありがたいですけども、全国的に出生率が下がっているということで、もっと早く進めていかないといけないと思うんですけど、10年計画だと、例えば、今、私立でやってらっしゃる方々も、あと10年たてば、どうなるかという話もありますし、もう少し前倒しはできないものでしょうか。

河合 幼児
教育課長

少し触れましたけども、基本的な少子化の流れが著しいということと、これまでできてなかったのは、無償化が始まったり、いろんな要因が重なって、今、適正配置計画できる環境が整ったと思っています。

ただ、出生数が、中津川市においても500人を割ってきている環境の中で、その四百何十人を奪い合いをするような環境ではいけませんので、前倒しでやっていかざるを得ないというのは重々承知しておりますが、やはり市民への説明とか、関係者を含めた十分な説明というところで、今回時間を設けさせていただいておりますけども、市長からも話がありました通り、ご説明している方が実際にやる時に変わってしまっているというのは十分考えられますので、そういったことも踏まえて計画を進めていく必要があると思

っています。

青山市長

実は坂本こども園が、優先順位からすると、この計画よりもはるかに低かった。しかしリニア駅に近く、それから小学校、中学校が一緒にある中で、あそこの敷地をこれから活用するには幼稚園と保育園が移転しないことには、これ以上、小学校、中学校を充実していくことはできませんという話をさせてもらいました。

そうしたら地元の方が動かれて、場所から全部同意を取っていただいて、急遽実現したという異例なことでした。

今、課長から説明あったように、おそらく人口問題も絡めた中で出てくる可能性があると思います。

10年スパンの中には入りますが、リニアの車両整備工場ができて、JRの人たちが家族連れでこられたときに、勤務としては長くなるわけですから、坂本、苗木近辺が、変わるのか変わらないのか。そうしたことが、多少この計画にも影響が出てくる可能性があるということです。

苗木の計画、それから坂本こども園の計画が、民間の方にも頑張ってもらおうという大前提のもとで大きく変わってくる可能性があるというふうに思っています。

三尾委員

今、田島委員さんがおっしゃられたことを、なるほど思ってお聞きしていました。

ちょっと視点を変えたときに、10年というスパンが長いのか、10年でこれだけできるのかというふうに見るのでは大分違ってくるという考えでして、保育園、幼稚園が計画的に10年で適正化がなされれば、素晴らしいことではないかなというふうに、逆に思いました。

というのは、この前も教育委員会でお話させていただきましたけど、小中学校の適正化というのも未来にはきっとあるわけで、そういった意味で規模の適正化をするには、このぐらいの負担が必要なんだということの一つ示していただいたというような気がします。

だから、これに沿って10年かからずに、5年、3年で終わればそれに越したことはないんですけども、今、お聞きすると、いろいろな問題が途中で起こってきたり、いろいろな状況の中で統廃合もしていくことを考えますと、安全に見た計画になっているんじゃないかなという気がします。

どちらにしても、基盤には集団規模等が適正化されることで、幼児期が人間として育つ基盤であるというふうに考えると、社会的な自立ということも出てきましたけども、そういうことを育てる意味で、じっくり時間をかけて地域で納得した統廃合がなされると素晴らしいなと思いました。

橋本委員	<p>最初に統廃合されるのは川上だと思いますが、うすうすはみんな感づいているというか、やんわりと順番に覚悟はできていると思います。</p> <p>私たちが子供を保育園に預けていた時は、預かってもらえればありがたい。箸の持ち方を教えてもらうとか、トイレにこまめに行ってくれるとか、ケガのケアをしてくれるとか。</p> <p>ですので、少ない方が手厚くケアしてもらえるので、少ないことに価値があるじゃないですけど。どうして少ないと駄目なのか、少ない方がありがたいというふうに思っていました。</p> <p>でも、こういう資料を読んで、多い中で社会的自立を学ぶところが保育園だというのは、なるほど目からうろここという感じがしました。</p> <p>何年もかけた計画で決まっていくとは思いますが、この計画に保護者や住民の合意とか理解が必要なのであれば、こういった前向きな理由とか、子供のためにこういうふうに良いんですとか、そういうことを説明していただけると、より受け入れられるし、前向きに新しい園にも子供を預けられると思いました。</p>
河合 幼児 教育課長	<p>今回、報告をさせていただくことによって、まず3歳以上の子供たちが集団を楽しむような形で、川上は3歳以上児ですので、合併して集団を楽しむような形にしていきたいなというふうに思うんですけども、統合することによって、職員をより一つの園に配置することが可能になってきます。</p> <p>そういったことで、委員が言われたような、丁寧に見える部分というのも、目、手が多くなる可能性があるということで、実際に再配置を試みたんですけども、フリーの主任のような、気付ける職員、そういったものを全園に配置をしても26人程度は削減ができます。</p> <p>逆にその職員たちを残しておけば、より丁寧な保育ができるという環境も整いますので、人員配置も含めて検討していきたいと思っています。</p>
田島委員	<p>私一つだけ心配なことがあって、民営化した時には、公のところへ民営化をするところの先生が行って、その公を学んで、できたところは民の先生方が入っているという小鳩になっています。</p> <p>そして、坂本こども園は先生方、保育園、保育士、幼稚園教員もいずれも公の先生方が入ってらっしゃるわけです。</p> <p>ところが指定管理の苗木、付知とか、坂本も入っていますし、ここは公と民と両方の先生が入らなきゃいけないような状態になるのではないかとというのが心配で、すごく差がありますよね。</p>
青山市長	<p>両方入るわけではないですよ。</p> <p>指定管理は民の方になるわけですよ。</p>

田島委員

ありがとうございます。

青山市長

私も保育園には1時間かけて電車で田瀬まで1人で通いました。

その時は、やかましい坊主が家にいるよりも、どこでもいいから預かってもらった方が良くと親が考えたと思います。今は子供を保育園に通わせる、幼稚園に通わせるということの価値観も変わってきました。

ただ、どうしても近いところがいいというのはわかりますが、交通体系や様々な世の中の変わってくる中で、過去には大きな課題であったものが今はそんなに大きな課題ではないということもあります。

川上については、やさかという地域づくり頑張っているところがあります。

ある程度の隣接した地域と一緒にあって、将来の体制を作り上げていくということは避けては通れません。

これは教育分野だけではなく、様々な分野で協力していかなければならないと考えます。

病院等については、隣町と一緒にあってやらなければならないとか、処理場的なものについても、他の自治体と一緒にやっていくのは当たり前だというような時代になっていきます。

部門は違いますが、瑞浪と土岐の2市で市立病院を一つ作るということで、最初は喧々諤々で、瑞浪に作るのか土岐に作るのか綱の引き合いになってしまって、一步も進むことができませんでした。

こういった時代の中にあって、これが必要なんだという説明からスタートしてようやく場所が決定して、指定管理として厚生病院が受けていくというような形ができました。

今度は建設資金をどうするんだと、400床という大きな病院になったときの医師の確保はどうするんだ、というような具体的なことへ入ってきたわけです。

形を変えていかないと時代に対応できないという部分があります。

しかし、そこには子供さん、お父さん、お母さん、また地元の意をどこまで酌んであげることができるのかということなんです。

100%となると、話自体を前に進めることができないこともあります。

こうしたことも今の社会の仕組みの中には当然あり、組み込んで考えていかなければならない時代になってきたということも皆さんにも理解いただきたいと思います。

私の家のすぐ近くの高山保育園は、木造ですごく良い施設です。

保育園をやめて、老人施設にしたら最高に老人が元気になる保育園だと思

っているんですけど。

そうした環境的なこともぜひ私は入れて考えていただければという思いがあります。

小栗委員

こういう形でビジョンを示すということはすごく大切だと思います。

先ほど河合課長からお話がありましたけど、今後の流れの中では前倒しもあるとおっしゃったので、そういったことも含めながら、まずは10年で持っていくんだと示すということで、幼稚園、保育園だけではなくて小学校中学校、他にも必要だと思います。

それを示すことによって、市民の皆さんも考えるようになります。

これを進めていきながら、基本はそこで学ぶ、育つ子供たちにとって、どういう環境が一番いいかということ、考えながらやっていくということが大前提です。

地域とか、そこに住まれている方というのは、いろんなご意見があるのは重々承知ですけども、まずは子供たちの環境を大事に考えるというところで、どんどん進めていっていただきたいですし、またこれに合わせて小学校中学校もこういったものをしっかりと作っていかないといけません。

目先ではなくて、10年、20年先も見据えた適正さというのを作っていかないといけないのかなと改めて思いました。

青山市長

これを説明していくのが我々の仕事になってきますので、子供さんにとってどうであるかということ強く出していきたいと思います。

今日は、背景の説明と将来的な基本方針、そして将来的にはこういう計画で進めたいという説明でしたけど、他にご意見あればお伺いします。

今日はこの10年計画をご確認いただいたということで、よろしいでしょうか。

様々なご意見をいただきまして、ありがとうございます。

この委員会は、私はフリーでやるのが一番いいと思っております。

こういった時期ですので、子供たちが安全・安心に学校又は園で生活を送ることができる、勉強することができるということについて、皆さんと議論していくことが非常に大事だと思っておりますので、また委員会としてやるのか、意見交換としてやるのか、これはまた事務局の方をお願いをさせていただきまして、本日の協議事項以上でございますので、これで議長を下ろさせていただきます。ありがとうございました。

総務部長

ありがとうございました。

それでは、次第5.「その他」に入ります。

委員の皆様からご意見等がございましたら、ご発言をお願いします。

それでは、「その他」を終了いたします。

以上で、本日予定しておりました日程は終了いたしました。

これをもちまして、令和2年度第1回中津川市総合教育会議を閉会いたします。

ありがとうございました。

閉会 （ 午後4時35分 ）

上記の会議の経過を記載してその相違ないことを証するため、ここに署名する。

〔署名欄〕
